

飯田市地域ぐるみ環境 ISO 研究会 設立 20 周年記念イベント報告書



記念イベント会場(飯田人形劇場)にて記念撮影(2016 年 12 月 13 日)

日本生命財団・学際的総合研究助成

「環境イノベーションの社会的受容性と持続可能な都市の形成」

都市環境イノベーション研究会

研究代表者・松岡 俊二(早稲田大学)

2016 年 12 月 27 日

1. 背景と参加者

2016 年 12 月 13 日（火）、長野県飯田市の飯田人形劇場において、地元企業や市役所などを会員とする地域ぐるみ環境 ISO 研究会設立 20 周年記念イベントが、参加者約 80 人で開催された。本研究プロジェクトから 4 名が参加し、研究代表者・松岡が記念報告を行った。

参加者の構成を表 1 に示した。

表1 調査団メンバー

	参加者氏名	所属
1	松岡 俊二	早稲田大学・日本生命財団プロジェクト・研究代表 国際学術院・アジア太平洋研究科・教授
2	渡邊 敏康	早稲田大学 理工学術院（創造理工学研究科）・博士後期課程
3	竹川 章博	上智大学 地球環境学研究科・研究補助員
4	岩田 優子	早稲田大学 アジア太平洋研究科・博士後期課程（研究会事務局）

2. 記念イベント全体スケジュール

15:00～15:05	開会宣言	田中詔秋・副代表 （三菱電機(株)飯田工場長）
15:05～15:15	研究会 20 年の振り返り（VTR）	
15:15～15:45	外部からの研究会の検証レポート報告	早稲田大学大学院・松岡俊二教授
15:45～15:50	記念誌の紹介	(一財)地球・人間環境フォーラム 平野喬専務
15:50～16:00	休憩	
16:00～16:10	エコバック贈呈式	萩本範文代表 →飯田 OIDE 長姫高校 南信州レジ袋削減推進協議会 今村良子会長
16:10～16:20	南信州いいむす 21 更新登録証交付式	牧野光朗連合長 →飯田 OIDE 長姫高校
16:20～16:30	リレートーク①	飯田 OIDE 長姫高校
16:30～16:40	リレートーク②	牧野光朗市長
16:40～17:10	リレートーク③	萩本範文代表
17:10～17:15	萩本範文代表から関重夫新代表へのバトンタッチ	
17:15～17:20	萩本範文代表へ花束贈呈	花束贈呈係：森岡氏
17:20～17:25	関重夫新代表からの決意表明	
17:25～17:30	閉会宣言	大長眞・副代表 （オムロンオートモーティブ・エレクトロニクス(株)取締役副社長（兼）飯田事業所長） ※同社・木下喜絵氏代読
17:30～17:35	集合写真撮影（各代表）	
17:35～17:40	集合写真撮影（参加者全員）	
18:15～	地域ぐるみ環境 ISO 研究会 20 周年記念慰労会@MATENROU（摩天楼）	

3. 概要

3.1 開会宣言

○地域ぐるみ環境 ISO 研究会が創設された時代背景を振り返る。

- ・ 1970 年代～80 年代の公害対策の歴史
- ・ 1990 年代に開催された地球サミット
温暖化・生物多様性へと環境問題の中心軸が推移
- ・ 1996 年 ISO14001 の登場
- ・ 1997 年 COP3 京都議定書

「地域ぐるみで ISO へ挑戦しよう研究会」創設

○萩本範文代表への感謝の言葉

3.2 エコバック贈呈式

○飯田市における循環型社会の取組みとして、レジ袋削減運動の取組みについて紹介。

3.3 南信州いいむす 21 更新登録証交付式

○工業高校時代から進めてきている取組みを評価。

○教員を含めてメンバーが変わってしまう中でも、継続的に取り組みを進めてきた。

○松本大学・飯田 OIDE 長姫・市で連携をして「地域人教育」を実践してきた。今年で 5 年目になる。

○ぜひ初級から中級へステップアップしてほしい。

3.4 リレートーク

3.4.1 飯田 OIDE 高校

○環境 ISO への理解を深めるために、ISO 環境学習会を開催した。

○文化祭の際には、ごみ分別の取組みを実施。

○引継ぎの課題が以前から存在している。

3.4.2 牧野光郎市長

○高校生の活動への感謝。地味な活動の継続の難しさに理解を表明。

○地域とのつながりの難しさや、行動の出発点の難しさについて言及。

○研究会のメンバーとして当初から市も入っていたことが特徴的な取り組みであったと自己評価。

○20 年間の取り組みは様々な機関・団体の評価を受けてきた。現在は環境モデル都市の認定を受けている。前身の環境文化都市構想の際にも「なぜ環境なのか」といった議論があったが、今となっては間違っていなかったといえる。

○このなかで研究会の果たした役割は小さくなかった。産業の自立の機運の醸成にもつながるものとしても、これまでの環境の取組みは評価できる。「ムトス」の精神という、“株主中心主義”的な発想とは異なるものさしが原点にあったのではないかと。

○取り組みは 20 年間継続したものになっている。家庭や、高校生、商店街にも取り組みは普及してきた。

○研究会の取り組みは、発展こそすれども、衰退させるわけにはいかない。研究会の創設の理念は、必ず立ち戻っていく理念となる。環境の取組みの原典は「地域ぐるみ」だ。点から線、面へと、「さらに、さらに発展させていこうではありませんか」。

○これから何をするかを考えるべき。

3.4.3 萩本範文代表

- 牧野市長との出会いの経緯や、出会いの場であったスマートバレージャパン(以下 SVJ)、そして環境 ISO 研究会創設の経緯について、当時の時代背景にも言及。
- SVJ の影響を受けて、市役所や学校との連携で実施した企業や地域の小中学校・高校の IT 化の取組みが、飯田市の若手の職員とのコネクションを形成する端緒となった。
- 現在、研究会は事業所数 28、従業員数では 7,000 人に及ぶ。ごみの有料化やごみの分別の実施、またレジ袋の辞退運動の際にも、政策をスムーズに導入する潤滑剤として下支えしたのではないかと。
- 新たな代表者のもとで、持続可能な地域づくりのための新しいテーマの発見と挑戦を呼び掛ける。

3.5 関重夫新代表からの決意表明

- 「幸せ。今は感動」。決意表明の文章を用意してきたが、その瞬間に沸き上がってきた自らの言葉で挨拶。
- 何ができるかわからないが、これまでの活動を持続的かつ根の生えたものにしていきたい。



研究代表者・松岡の報告



萩本代表から関新代表へのバトンタッチ